事業報告概要書（公表版）

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都立動物園グループ	（指定管理者名）公益財団法人東京動物園協会 （団体の概要）昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、 併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。
指定期間	
上野・多摩・井の頭　H28.4.1～R8.3.31（10年間）	
葛西　R5.4.1～R8.3.31（3年間）	

2　施設名

恩賜上野動物園
多摩動物公園
井の頭自然文化園
葛西臨海水族園

3　収支(単位:千円)

項目		令和６年度 金額	令和５年度 金額	令和４年度 金額
収入　計		7,435,499	7,025,587	6,839,589
内訳	指定管理料	7,435,278	7,024,155	6,830,872
内訳	利用料金			
内訳	その他収入	221	1,432	8,717
支出　計		7,494,931	7,123,331	6,896,836
収支差		△59,432	△97,744	△57,247

公園別支出額

上野動物園　：2,660,540
多摩動物公園　：2,238,697
井の頭自然文化園：783,144
葛西臨海水族園　：1,812,550

4　管理運営の概要

当協会は、以下の３つの基本的な考え方に基づき、都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。
①展示の工夫と快適な観覧環境の提供による「楽しみながら学べる動物園・水族園」の実現
②国内外の関係組織との協力による野生生物の保全への貢献
③公益性と経営感覚を合わせ持った施設運営

5　管理状況

①維持管理

動物園・水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。
(1) 施設の点検と保全：日常の施設点検等に基づく計画的な補修や緊急的な対応等により、各園を適正に運営することができた。
(2) 園内植物の維持管理と活用：ボランティアと協働して園内植物の維持に取り組んだほか、園内の樹木等をめぐるガイドツアーや在来山野草の保護を継続発展させる取組の来園者への解説など、園内植物を教育普及活動の資源としても積極的に活用することで、基本的な樹林地管理にとどまることなく、園の魅力アップに努めた。
(3) 自然災害への対応：「気象災害対策計画」を定め、緊急時の連絡・待機態勢を整えた。
(4) 省エネ化への対応：空調設備更新時に省エネルギー性能の高い機器を選定するなど、機械設備を省エネ性能に配慮して更新した。
(5) 施設補修：園路やデッキの補修、設備の更新等を通じてアクセシビリティや利便性を向上させた。
(6) 東京都工事への対応：都の大型工事による飼育環境の変化に応じた施設補修を行う等、事業が円滑に進むよう調整・協力するとともに、飼育環境の維持に務めた。
(7) 動物舎等の維持補修：老朽化した施設を予防保全の見地から計画的に補修することで、効率的かつ効果的な維持管理を行った。

②利用者への対応

(1) 魅力ある展示：アイアイ及びキツネザルが野生本来の採食行動を発現できるよう考慮した給餌器の活用（上野）、アジアゾウに対しあえて餌をとるのに時間がかかるよう工夫したボール状の給餌器兼遊具の活用（多摩）、水生物館における展示生物に関連した標本や資料などを展示する新コーナー「トピック展示」の開設（井の頭）、「葛西周辺のカニ」水槽の改修によるチゴガニの臨場感あふれる展示（葛西）など、４園でより魅力的な展示の実現に努めた。
(2) 教育普及事業：教育普及センターが中心となりながら４園が連携し、学校教員へのヒアリング等に基づくプログラムの改善や教材の共同開発等を積極的に進め、学校教育と都立動物園・水族園の教育普及事業との連携をより一層強固なものとした。また、井の頭において、動物園におけるデザインを切り口とした４園連携の特設展示を開催するなど、新たな魅力の創出・発信を行った。
(3) 入園者誘致の取組：ゴールデンウィークの時間延長のほか、夏季の夜間開園（上野・多摩・葛西）や秋の３時間延長（井の頭）を行い、需要に合わせて効果的に入園者数の増加を図った。また、第２次都立動物園マスタープランに基づくVisit Zoo事業（冬の閑散期における周遊企画等）の展開や、SNS等を活用した戦略的な広告宣伝、GOOD LIFEフェア等外部でのブース出展を通じた利用促進、訪日外国人旅行者向けの広告掲出など、入園者数増に向けた取組を推進した。
(4) 来園者に寄り添った接遇の取組：案内接遇職員の能力向上を図るため４園で英語研修や接遇研修を行うとともに、関連資格の取得を推進した。また、上野・多摩・井の頭では園内でひと涼みできる場所として「ひんやりZOOスポット」を、葛西では過去の状況から園内の混雑状況を予想した「混雑予想カレンダー」を発信することで、質の高いサービスの提供に努めた。
(5) 危機管理対策：初動対応計画に基づき、所管警察署や消防署と連携して震災対策訓練やテロ対策訓練を実施し、災害時等の対応力向上を図った。また、高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアルに基づき、園内発生を経験したことのない上野・井の頭・葛西で机上訓練を実施し、対応力の向上を図った。情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ対応基準に基づき自己点検や研修等を定期的に実施することで、職員全員の情報セキュリティに対する意識を高め、管理水準の組織的な向上を図った。

6　利用者アンケート結果

実施方法：来園者にＱＲコードを提示しWEBアンケートサイトで回答していただく。※４段階評価

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
恩賜上野動物園	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5
多摩動物公園	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6
井の頭自然文化園	3.6	3.8	3.6	3.7	3.7
葛西臨海水族園	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
恩賜上野動物園	3,362,664	パンダの返還に関連したイベント等の実施により利用を促進し、前年度比増（+3.0％）となった。
多摩動物公園	884,626	インドサイの母子等魅力的な展示を実現し、前年度比増（+10.3％）を達成した。
井の頭自然文化園	703,873	酷暑の影響を受けたが、特設展を通し新たな魅力の創出・発信により、前年度と同程度となった。
葛西臨海水族園	1,327,855	35周年記念や夜間開園で園の魅力を発信するなど利用を促進し、前年度比増（+5.4％）となった。
合　計	6,279,018	

恩賜上野動物園 Ueno Zoological Gardens

目指す姿

様々な動物の魅力的な展示を通して、野生生物保全の重要性を国内外へ発信する動物園

◎ 野生動物に関する多様な情報発信の拠点
◎ 動物の多様な魅力を伝える展示の改善
◎ 誰もが利用しやすい観覧環境の充実

誰もが利用しやすい動物園づくり　アクセシビリティに配慮した取組の推進

●障がい等により動物園を訪れる機会が少ない子どもとそのご家族に楽しいひとときを過ごしてもらう「ドリームイブニング」を開催し、1,519名が参加した。
●飼育係のガイド等では、トーク内容が言葉だけでなく視覚的にも分かるようにフリップを用いるとともに、手話通訳も行うことでアクセシビリティに配慮した。
●新たな取組として、発達障害や知的障害、精神障害などをお持ちの方が外部の音や視線を遮断し気持ちを落ち着かせてパニックを防ぐための「カームダウンスペース」の設置、知覚に過敏な方が快適に過ごせるよう、音や匂いのする場所を示した「センサリーマップ」の作成・配布を行った。
●「センサリーマップ」はイベント後に一部改良のうえ、公式ホームページで常設公開し、イベントの開催を通して来園者のアクセシビリティに配慮した取組を加速させた。

手話通訳付きでキーパーズトークを実施

外部の視線等を遮断しパニックを防ぐための「カームダウンスペース」の設置

「センサリーマップ」はイベント後に公式ホームページで常時公開

野生動物保全（繁殖）　「飼育展示計画」に基づく域内・域外保全に貢献する２つの顕著な成果

●第２次都立動物園マスタープランの下位計画として策定した「飼育展示計画」に基づき、域内・域外保全に貢献する２つの顕著な成果を出した。
●第一に、環境省の保護増殖事業に協力し、国内動物園と連携して日本初となる野生のニホンライチョウからの精液採取と人工繁殖に成功した。
●第二に、「飼育展示計画」における優先種であるコビトカバについて、ブリーディングローンにより導入した個体との交尾により、13年ぶりの繁殖に成功した。

日本初　野生のニホンライチョウからの採精と人工繁殖に成功！

上野動物園はJAZAの加盟園館として、令和３年度からライチョウの人工採精や人工授精の技術開発に取り組んでいる。今回、野生オス由来の精液による繁殖成功により、上野動物園を含む域外保全個体群の遺伝的多様性の維持に大きく貢献することとなった。

野生オス個体からの精液採取

13年ぶり　コビトカバの繁殖に成功！

上野動物園では令和５年にブリーディングローンによりオス個体の貸与を受け、繁殖に取り組んできた。令和６年８月に繁殖のため同居させたところ交尾が確認され、令和７年３月に出産した。上野動物園におけるコビトカバの繁殖は13年ぶりであり、希少種の域外保全に大きく貢献した。

コビトカバ母子

利用者サービスの向上　入園券のオンライン決済の刷新とキャッシュレス決済端末の更新

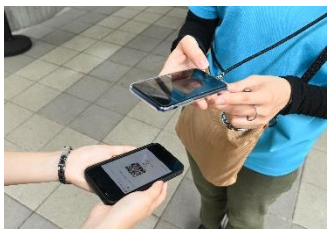
●入園券のオンライン決済サービスを刷新し、従来の２か国語(日英)から５か国語(日英繁簡韓)対応としたことで、特に東アジアからの訪日外国人来園者の利便性の向上に寄与した。また、グループ着券機能の導入によって着券スピードが向上した。
●キャッシュレス端末を更新し、新たにクレジットカードのタッチ決済やディスプレイによる英語併記の操作案内の導入などにより、利用者サービスの向上につなげた。

オンライン決済サービスの刷新

購入画面(中国語・簡体字)

海外販売数に占める中国、香港、台湾、韓国人の割合が前年同期に比べて、4.8%増加！

キャッシュレス決済端末の更新



グループ着券機能により着券スピードが向上
（１つのQRコードでグループの入園が可能）

タッチ決済を導入

創意工夫による効果的な維持管理　デジタル技術や新たな手法の導入による安全な施設運営

●飼育担当者の安全確保や動物脱出等の非常時緊急連絡用にスマートフォンを導入し、さらに、危険が想定される飼育担当者にはスマートウォッチも導入した。これにより、緊急時は自動もしくは手動で管理事務所に通報され、通話で状況把握もできることになり、飼育作業の安全性や動物脱出時等の危機管理体制が向上した。
●来園者の目線に立って園内の危険個所の洗い出しを行うため、総務部職員による施設総合点検を６月と１月に１回ずつ実施し、発見した不具合箇所は迅速に補修を行うことで、安心安全、快適な利用環境を確保した。

非常時緊急連絡用スマートウォッチの導入

スマートウォッチが職員の異常を検知し自動で通報

来園者の目線に立った施設総合点検と不具合箇所の迅速な補修

グレーチングの隙間の補修

ベンチの老朽化や座面のぐらつきの補修

ネイチャーポジティブに向けた取組　園内樹木等の適切な維持管理と資源としての活用

●年間を通して園内の樹木等を適切に維持管理しただけでなく、植物にまつわるガイドツアーを実施し教育普及のための資源として活用した。11～12月に「紅葉ツアー」を２回、４月・３月に「サクラガイド」を３回開催し、計151名が参加した。
●「紅葉ツアー」では、紅葉の紹介に留まらず、上野動物園の歴史や閑々亭等の歴史的建造物についても多くの来園者へ発信することができ、アンケートでは84名の回答のうち、99%の方から満足との評価を得ることができた。

サクラツアー

紅葉ツアー

＜参考＞

紅葉ツアーアンケート　自由意見の一例

・紅葉の仕組みやモミジとカエデの違いなど、とても勉強になった。
・普段意識していなかったものに興味が持てた。
・動物園内に歴史的な建造物等が多く残っていることに感動した。

多摩動物公園 Tama Zoological Park

目指す姿

多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生動物の繁殖を推進する動物園

◎ 豊かな自然を活かした生息環境の再現
◎ 野生動物の繁殖基地としての機能充実
◎ 野生生物保全センターでの保全の推進

希少な野生生物の保全　「希少種保全動植物園等」の認定と第２次ズーストック種等 計13種の繁殖に成功

●環境省から「認定希少種保全動植物園等」制度における「希少種保全動植物園等」に認定された。これにより、希少種を移動させるための手続きなどが免除され、繁殖等に向けた他園館との円滑な個体移動などが可能となる。
●今年度は、50年ぶりとなるインドサイの繁殖や、多摩動物公園で２例目となる人工採精によるチンパンジー繁殖など、**第２次ズーストック種と保全対象種 計13種の繁殖に成功**した。
●また、日本で初めてニホンコウノトリの有精卵を韓国から導入し成育させたことで、国内のニホンコウノトリの**遺伝的多様性に配慮した繁殖を推進**した。

「希少種保全動植物園等」に認定

・動植物園等が持つ「種の保全」という公的機能の明確化や社会的な認知度の向上が期待される。

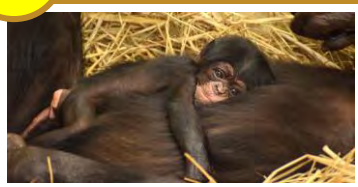
・多摩動物公園の認定により、都立動物園等は全て「希少種保全動植物園等」となった。全国では23園館が認定されている(令和７年３月６日時点)。

日本初　韓国からニホンコウノトリの有精卵を導入し成育に成功！

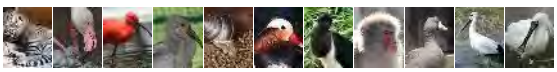
携帯ふ卵器で移動し、成育に成功！

50年ぶり　インドサイの繁殖に成功！

多摩で２例目　人工採精によるチンパンジーの繁殖に成功！



その他 第２次ズーストック種と保全対象種 計13種の繁殖に成功



飼育に関する技術発展　アフリカゾウ抜牙処置の成功と麻酔技術の向上

●左牙の内部組織が壊死し感染症等のリスクを抱えていたアフリカゾウについて、北米ゾウ抜牙専門家チーム等から抜牙施術及び施術に向けた調教に関する技術的なレクチャーを受け、**日本初となる抜牙処置に成功**した。
●４園や他の動物園の獣医師などを含む総勢66名が協力して麻酔を実施し、**当協会及び国内の獣医師の麻酔技術向上に寄与**した。
●処置の成功はテレビや新聞などでも取り上げられるとともに、８月の「世界ゾウの日」においては、抜牙処置に関するスペシャルトークや抜いた牙の展示を行うなど、都立動物園が取り組むアニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した飼育管理やこれまで培ってきた高度な飼育技術の更なる発展、国内外の豊富なネットワークの重要性を発信することができた。

日本初　北米のゾウ抜牙専門家チーム等の指導に基づきアフリカゾウの抜牙処置に成功！

専門家の指導により麻酔技術が向上

抜牙処置後の経過は良好

「世界ゾウの日」において取組を発信

抜いた牙の展示により都立動物園の取組を発信

利用促進　アフリカ各国と連携して賑わいを創出「第10回都立動物園アフリカフェア」

●アフリカ各国の自然や文化、野生動物の現状や保全活動などを紹介することで日本とアフリカ各国の友好を図ることを目的とした「都立動物園アフリカフェア」を在京アフリカ各国大使館の協力のもと開催した。
●昨年の５か国を大きく上回る11か国の大使館ブースを設けるとともに、アフリカ布を用いたワークショップやアフリカの多様な文化や野生動物を紹介する企画展など、様々なイベントを実施した。
●会期２日間で11,500名が来園し、第10回の節目に賑わいを創出した。

アフリカ音楽＆ダンスの公演

都の要請への協力・DX　デジタルサービス局と連携したDX活用プログラム

●デジタルサービス局の企画で、東京都の産官学のコンソーシアムによるデジタル技術の都市実装の一つとして、ロボットを通して実物に触れる感触が得られる技術の実証を行った。データは多摩動物公園等で収集し、普段触れることのできない動物たちの感触をロボットで再現して、２日間で552名の来園者に体験してもらった。
●プログラムの実施により、デジタルサービス局が進める産官学コンソーシアムによるデジタル技術の都市実装の事業に貢献することができたほか、教育普及プログラムでの活用など、動物園におけるアクセシビリティの向上に資する技術の試行として重要な事例の一つとなった。

キリンの餌を引っ張る力を再現するための
データ採取

動物たちの感触をロボットで再現

親子連れを中心に
２日間で552名の来園者が体験

地域連携・都民協働　都民や地域との協働・連携による多摩動物公園及び多摩地域の活性化

●ライオンバスの運行60周年と京王動物園線の開通を記念して、京王電鉄株式会社と連携し多摩動物公園と京王れーるランド、京王線高幡不動駅を巡るスタンプラリーを実施するなど、多摩地域の魅力をPRした。
●イオンモール多摩平の森で開催した日野市主催のイベントに多摩動物公園としてブース出展し、地球環境保全行動戦略に基づく取組や４園連携して取り組んでいるアカハライモリの保全活動について紹介するとともに、今年度は新たに多摩動物公園における園内発生材の利活用の取組の紹介や葛西臨海水族園とつなぐアバターロボット体験を行った。
●ナラ枯れ被害木の伐採やナラ枯れ予防のための樹幹注入に加え、NPO法人樹木環境ネットワークと協力して補植用苗木を育成した。今年度から苗木を植樹し、ナラ枯れで痛んだ雑木林の再生に取り組んだ。

京王動物園線＆ライオンバス
60周年記念スタンプラリー

「日野市環境フェア」に出展し
地球環境保全に向けた取組を紹介

NPO法人と協力し、園内で種子を集め苗木を成育
成育した苗木の植樹により雑木林の再生に取り組む

井の頭自然文化園 Inokashira Park Zoo

目指す姿

いつでも気軽に楽しめ、充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む動物園

◎ メダカからツシマヤマネコまで日本産動物の保全と普及啓発の拠点
◎ 動物を身近に感じる教育プログラムの充実
◎ 美術や音楽などの文化も楽しめる魅力的な施設運営

４園連携した動物園の魅力向上

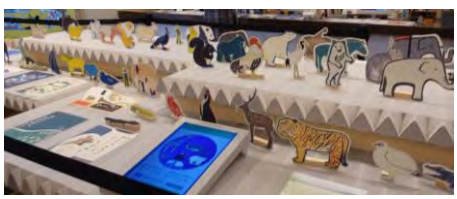
「動物園におけるデザイン」を切り口とした新たな魅力の創出・発信

●未来のデザイン室（通称デザニャーレ）という設定の会場で、**これまであまり紹介する機会がなかった動物園・水族園のデザインの面白さや工夫を、デザインの重要性にも触れながら紹介する特設展を開催**した。
●これまでに制作したチラシやグッズを一堂に集めたダイナミックな壁面展示、デザインの過程を感覚的に理解してもらえるデザイナーデスクの再現など、立体と平面を効果的に使い分けたデザインや、音、映像、体験にこだわった展示制作の結果、デザインに興味関心の強い方など、新規層の開拓に繋がり、新たな切り口で４園をアピールすることができた。
●特設展に関連して、飼育動物を実際に観察した後にオリジナルのピクトサインを制作しデザインの重要性を実感してもらうワークショップや、特設展に関わった３園の専属デザイナー等が企画開催の経緯やそれに込めた思いなどについて話すトークイベントも実施し、計98名が参加した。
●特設展や関連イベントの実施により、**デザインに興味関心のある方を中心に普段あまり利用しない客層へアプローチできた**とともに、特設展をきっかけに経済産業省特許庁からデザインに関する研修講師の依頼があり、１月にオンラインで実施するなど、大きな反響があった。

「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」

ポスターグラフィック

デザニャーレ入口



チラシを切り抜き、立体的に展示

チラシ等を一堂に集めたダイナミックな壁面展示

デザインの過程を再現したデザイナーデスク

特設展に関連したイベント

都立動物園・水族園のインハウスデザイナーと作る〝生きものピクトサイン〟親子向けワークショップ

「ようこそデザニャーレ-東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室-」クロージング・トーク

環境学習　ヤマネコをはじめとした日本の島嶼部に生息する野生生物の保全の取組を発信

●東京動物園協会を含む野生生物の保全に取り組む各種団体の展示や様々なワークショップの実施により、ツシマヤマネコに親しみを持ってもらったり、野生生物の保全について普及啓発するイベントを実施した。
●今年度はツシマヤマネコだけでなく、日本の島嶼部に生息する野生生物の保全の取組を広く紹介するとともに、各団体の展示をより多くの方に訪問してもらえるよう、展示ブースのスタンプラリーを実施した。この結果、**昨年度の2.4倍となる1,578名が当協会のブースを訪れ、保全の取組を紹介**することができた。

東京動物園協会ブースを出展
（野生生物保全及び地球環境保全の取組を発信）

対馬や小笠原諸島などの希少な動物について解説する
「島にすむいきものたち」ガイドツアー

展示ブースへの回遊性高めるため
スタンプラリーを実施

広報・PR　外部出展や広告掲出による井の頭自然文化園のPR

●「人や地球を思いやり、心地よく豊かな暮らし」を目指す展示会「GOOD LIFEフェア」に出展し、パネル展示やパンフレット等の配布、体験イベントなどを通して都立動物園・水族園の魅力や取組を発信した。展示ブースにはファミリー層を中心に３日間で3,386名の来訪があり、利用促進を図ることができた。
●吉祥寺駅及び八王子駅の大型ビジョンへファミリー層向けの動画広告の掲出を行い、井の頭自然文化園のメインターゲットであるファミリー層の利用促進を図った。

「GOOD LIFEフェア」における展示や体験イベント

パネル展示

ヤギの豆フン掃除体験

クイズ大会

Instagramフォローでプレゼント

動画広告の掲出

吉祥寺駅大型ビジョン

地域連携　武蔵野美術大学と連携して彫刻園の魅力を発信

●彫刻園学芸員がコーディネーターとなり、武蔵野美術大学芸術文化学科でアート・デザインと芸術文化の社会活用を学ぶ学生とともに、彫刻園と彫刻家・北村西望にちなんだ企画展を開催したほか、ワークショップやスタンプラリーなどを実施し、計398名が参加した。
●武蔵野美術大学と連携し、学生の新鮮な感性や視点を生かしてテーマを設定することで、若い世代を中心に彫刻園について興味をもってもらうきっかけとなった。

ポスターグラフィック

『ムサビ芸文 in 井の頭自然文化園
生活のなかのかたち』展覧会

北村西望の作品をモチーフに
木の枝等で作品を作るワークショップ

展覧会への誘導を図る
スタンプラリー

葛西臨海水族園 Tokyo Sea Life Park

目指す姿

「生態」から「食育」まで楽しく学べる水族館

◎ 東京湾から外洋、世界各地の海の生態をいきいきと再現する展示
◎ 海と人とのつながりを情報発信
◎ 海洋生物研究の拠点

水族園の魅力向上　開園35周年を契機とした水族園のさらなる魅力向上

●開園から35周年を記念して「これまで」の歩みを振り返るとともに、令和10年オープン予定の施設を見据えた水族園の「これから」を考えることをテーマとして、スペシャルガイドツアーや、水族園の生き物が描かれたぬりえを楽しむイベント、35周年記念ロゴマークをデザインしたエンボススタンプの設置など、様々な企画を実施した。
●８月と10月を除き毎月開催した35周年記念スペシャルガイドツアーでは、普段入ることのできない施設の裏側を案内するなど、計140名が参加した。
●また、「水族園リーダーたちの夢」と題して、葛西臨海水族園の各部署のリーダーたちが、理想の水族館や今後の仕事でやりたいことなど、働く職員の生の声をホームページ上で発信し、開園35周年を契機として水族園のさらなる魅力向上を図った。

35周年記念ロゴマーク及びキービジュアル

左：ロゴマーク
右：ポスター「わたしたちはとまらない」

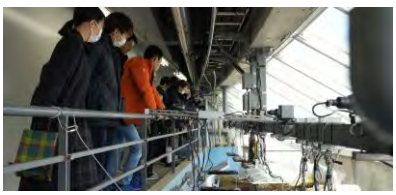
35周年記念の横断幕と連続旗を掲出

35周年記念スペシャルガイドツアー

４月「ペンギンの裏側ツアー」

９月「サンゴの飼育」

12月「施設の裏側」



２月「身近だけどよく知らない？海藻のはなし」

展示改善　「サンゴ礁の海」 飼育下個体群の生息地への再導入と水族園の更新を見据えた展示開発

●地球温暖化等により危機的な状況にあるサンゴ礁について、飼育下個体群の生息地へ再導入と葛西臨海水族園のリニューアルを見据えて、令和４年度から「サンゴ礁の海」水槽でのサンゴ類の展示に取り組んでいる。
●約２年間の展示を通じて得た課題を踏まえ、９月に照明や水質改善などの設備改修を行うとともに、複数海域由来であった「サンゴ礁の海」水槽をリセットし、12月には種子島から約150群体のサンゴを搬入した。
●サンゴ類は種子島産に統一することで、将来的な飼育下個体群の生息地への再導入に向けた取組を推進した。
●また、サンゴ類だけでなく魚類や無脊椎動物を加えた複合展示、サンゴ礁の役割や抱える問題などについて発信するリーフレットの配布により、展示の見応えが増し多くの来園者から好評を得るとともに、サンゴ類への関心を喚起することができた。

設備改修に向けた
サンゴの取り出し作業

種子島から
約150群体のサンゴを搬入

複合展示とリーフレットの配布により
サンゴ類への関心を喚起

利用促進　非日常感を演出して賑わいを創出「Night of Wonder(ナイト・オブ・ワンダー)」

●江戸川太鼓の演奏やスペシャルトーク、ガラスドームのライトアップ、ミストの演出など、夕涼みや夜の園内の雰囲気を楽しんでいただく企画を多数開催した。
●延長時間帯の入園者数(平均)は昨年度比1.8倍と、夏季に夜間開園した３園(上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園)の中で最も大きく伸び、利用促進に寄与した。

情報資料室の夜バージョン
「ナイトラボ」

ガラスドームのライトアップにより
幻想的な雰囲気を創出

延長時間帯の来園者数(平均)　昨年度比 1.8倍！

危機管理　津波警報発令を想定した震災対策訓練の実施　葛西初

●令和５年度に「大規模災害発生を想定した新潟市水族館マリンピア日本海及び名古屋港水族館との相互救援に関する協定」を締結し、11月に名古屋港水族館の公募型津波対策訓練の視察と三者で情報交換を行った。
●８月の南海トラフ臨時情報や11月の訓練視察・情報交換を受けて、12月には葛西臨海水族園で初めてとなる津波警報発令を想定した震災対策訓練を実施した。
●初めて葛西臨海公園とも連携し発災時を想定した公園内での来園者誘導の引継ぎを行ったほか、訓練の実施によって、迫ってくる津波に対して来園者が安心感を持って避難できるような誘導や津波による複合災害発生を想定した施設点検の流れを確認することができた。また、訓練の結果を踏まえて初動対応計画を改訂するなど、災害対応力をより一層強化した。

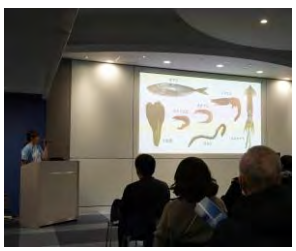
右：担架を使用して
傷病者を救護

左：公園と連携した
来園者の避難誘導

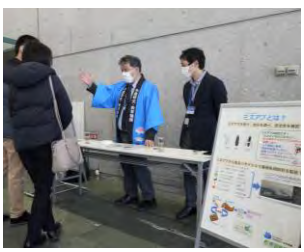
関係機関との連携　水産研究・教育機構と連携した普及啓発活動の展開

●水産業に関する技術向上を目的として試験、研究、教育を行っている国立研究開発法人水産研究・教育機構と連携し、様々なイベントを実施した。
●２月に開催した「新たな魚のエサについて考える」では、葛西臨海水族園と水産研究・教育機構のそれぞれの立場から水産資源である魚を大切に利用し続ける方法を紹介するトークイベントや、昆虫であるアメリカミズアブの幼虫を活用した飼料研究の紹介とその飼料を使って育てた養殖マダイの試食イベントを２日間行い、合計1,414名が参加した。
●その他、深海の生き物を紹介する「Deep of Wonder―不思議な深海の生き物たち2025」や、高校生・大学生向け講座「海の学び舎2024」などにおいても連携してイベントを実施し、水族園の取組と水産業の技術を交えることで、海と人とのつながりの大切さを効果的に発信した。

「新たな魚のエサについて考える」トークイベント・試食イベント



水族園スタッフがエサの工夫
などについてトークを実施



ミズアブを活用した飼料研究の紹介と
その飼料で育てたマダイの試食イベントを実施

深海トークショー

深海生物に関するトークを行った後は
圧力水槽実機や深海魚の標本を出して解説した